

臨床研究に関する情報公開

<人を対象とする医学系研究に関する倫理指針>に基づき、研究の実施について情報を公開します。

★本研究に関するご質問等がありましたら下記の<お問い合わせ窓口>までご連絡ください。

★ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書および関連資料を閲覧することができます。

★試料・情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、下記の<お問い合わせ窓口>までご連絡ください。その場合でも、患者さんに不利益が生じることはありません。

<p><研究課題名> 心房細動症例と左側副伝導路を介する房室回帰性頻拍症例における心房細動の誘発性及び持続性に関する検討</p>
<p><研究機関・研究責任者名> 日本大学医学部附属板橋病院 循環器内科 (研究責任者) 奥村 恭男</p>
<p><研究期間> 承認日 ～ 西暦 2019年12月31日</p>
<p><研究の目的と意義> 発作性上室頻拍は房室結節リエントリー性頻拍と房室回帰性頻拍に分類される。房室結節回帰性頻拍患者では 1/3 の患者で心房細動を合併すると報告されているが、その機序や患者の特徴は明らかにされていない。本研究は、房室結節回帰性頻拍患者の通常診療で行われる電気生理学的検査において、心房細動が誘発される患者の頻度を後ろ向きに調査し、その患者の特徴を明らかにすることを目的とする。さらに、実際の心房細動患者における心房細動の誘発性との相違があるか否かを調査する。これらを調査することで、房室回帰性頻拍患者が心房細動合併する機序を明らかにし、リスク因子を同定することが可能になる。</p>
<p><利用する試料・情報の項目> 診療記録(年齢、性別、BMI、合併疾患[高血圧、糖尿病、心不全、虚血性心疾患]の有無) 心臓超音波所見(左房の大きさ、左室収縮機能) 電気生理学的検査指標(心内心電図の特徴、心房刺激による心房細動の誘発の有無、心房細動持続期間)</p>
<p><対象となる患者さん> 西暦 2013 年 1 月 1 日～西暦 2017 年 12 月 31 日の期間に当院循環器内科で、カテーテル・アブレーションを行った発作性上室頻拍患者(このうち房室結節回帰性頻拍と診断された患者)および心房細動患者</p>
<p><研究の方法> 房室結節回帰性頻拍患者の通常診療で行われる電気生理学的検査において、心房連続刺激による心房細動の誘発の有無、誘発された場合の持続時間を後ろ向きに調査する。また、誘発された患者と、誘発されなかった患者の特徴(年齢、性別、BMI、左房の大きさ、左室機能など)を比較する。さらに、実際の心房細動患者での電気生理学的検査で、心房連続刺激による心房細動の誘発性や持続時間も加えて後ろ向きに調査し、患者背景、心臓超音波指標および電気生理学的情報と比較検討する。</p>
<p><お問い合わせ窓口> 日本大学医学部附属板橋病院(東京都板橋区大谷口上町 30-1) 循環器内科 氏名:奥村 恭男 電話:03-3972-8111 内線:(医局)2412 (PHS)8050</p>